

真宗大分

新年のご挨拶

大分教区教務所長

野川大卓

新年明けましておめでとう
ございます。

皆様におかれましては、お
念仏とともに新年をお迎えの
こと、お慶び申し上げます。

旧年中は教区内の多くの僧
侶・門信徒の皆様により、一
方ならぬお世話になりました。
誠にありがとうございました。

手帳のページをめくって振
り返ってみますと、多くのこ
とが思い起こされます。あ
んなこと、こんなこと、懐かし
く思い出されます。中でも八
月二十九日に別府ビーコンプ

ラザ・フィルハーモニアホ
ールで開催されました「大分
教区門信徒のつどい」では、大
分教区のパワーを実感させら
れました。壮年会を中心とし
た「正信念仏偈」の勤行とご
法話の聴聞で親鸞聖人のお心
を聞かせていただきました。
婦人会によるビデオ上映とダ
ーナ募金で日暮の中で私にでき
ることを確認させていただきました。
総代会による話し合
い法座で私のあり様を気付か
せていただきました。青年会
による閉会式では大遠忌法要
に向けての気運も高揚いたし

第130号
創刊 昭和41年8月
発行所
大分教区基幹運動
推進委員会
〒874-0920
別府市北浜3丁目6-36
本願寺別府別院内
TEL 0977-22-0146

ました。いずれも皆様方の手
作りのすばらしいものであり
ますとともに、私のための
「つどい」でもありました。

また、この機会に実行委員
会が発行されました『門徒の
しおり』は大変好評で、増刷
させていただいたことです。
全ての門信徒が携えて浄土真
宗により親しんでいただけれ
ばと思っております。

いよいよ本年はご本山で大
遠忌法要がお勤めされます。
あらためて親鸞聖人のご生涯
をしのびお徳を讃え、「世の
なか安穩なれ、仏法ひろまれ」
との親鸞聖人のおこころを体
して、心豊かに生きることの
できる世界の実現に微力なが
らお手伝いさせていただきます
と思います。

合 掌

親鸞聖人七五〇大遠忌法要勤修

本願寺四日市別院 輪番 山田孝之

明けましておめでとうござ
います。

平素より本願寺四日市別院
護持発展にご尽力賜り、衷心
よりお礼申し上げます。いよ
いよご本山では、親鸞聖人七
五〇回大遠忌法要が勤修され
ます。門信徒の皆様、一緒に
お参りいたしましょう。
さて、本願寺四日市別院で

は毎年恒例の報恩講御引上会、
「おとりこし」をお勤めいた
しました。この度は親鸞聖人
七五〇回大遠忌法要を併修し
ましたご法要にさせていただきました。
きました。

またこの度の法要で、「お
寺」というものに親しみを持っ
ていただければと思案してお
りましたところ、雅楽の演奏



お 勤 め



参 拜 者



舞 楽

家である先生にお出逢いしました。今回の法要の中で記念行事といたしまして、雅楽の音色に舞を合わせた、「舞楽」を行いました。仏教的行事になかなか参加出来ずにおられる方々に、音を通して興味を持っていただくとともに、聖人九十年のご苦勞を偲んでいただきました。

合 掌

基幹運動のページ

—新・基幹運動に向けて—

二〇一一年いよいよ七五〇回大遠忌の法要年を迎えました。とともに次年度、一一年度は現行「基幹運動総合基本計画」の前期三年、後期三年の六年間の最終年度でもあります。

中央推進本部において今年度(一〇年度)には、各教区及び宗務所内各部門についての点検評価が実施されました。この点検評価の集約をへて、新・基幹運動総合基本計画を各教区との往復作業のもとに策定していくこととなります。

点検評価の最初の設問は、「『基幹運動』という名称につ

いて」で、名称はこのままでよいのか、変更すべきかを問うものでした。大分教区では、「名称を変更すべき」であるとし、その理由として「時間をかけて浸透させてきた経緯を考えると『名称は継続を』という意見もあるが、名前(名称)への根強いアレルギーからみると今回変更のいい機会ではないか」と回答しました。

コツコツと地道に教区や組で運動の取り組みはすすめてきました。そこに関わる私たちの意識に「基幹運動」と聞いただけで、「またか」「もういいや」などと思ってしまう現実があるということです。この意識こそを問う運動でも

あったわけですが、極端な言い方をすれば実際には運動を推進しようとする側と、そうでない側という棲み分けすらなされていたのではないのでしょうか。この主たる原因は何かと言えば先述した「意識こそを問う運動」であると推進してきたことにつきると思います。「御同朋」の宗祖の言葉のもとに、現実社会に合わせてなんとか言葉をつくりながら運動に取り組もうとしてきたことも原因でしょう。そのほころびが「基幹運動」にアレルギーを持たせてしまったのではないのでしょうか。(ふり返れば反省ばかりではありますが)

基幹運動は、よく揶揄される「何も聞かん運動」では本来ありません。「御同朋の社会をめざして」・いのちの尊さにめざめる一人ひとりが、それぞれのちがいを尊重し、

ともにかがやくことのできる社会をめざして、それぞれの場で取り組んでいける運動にしたいこうではありませんか。「ちがいを認め合い、尊重する」との言葉をホンモノにしていく運動にする今回が絶好の機会になるように、それぞれの場において声をあげて、意見をいただきたいと思います。ご理解と、ご協力をどうぞよろしく願います。



親鸞聖人七五〇回大遠忌 お待ち受け法要実施組

豊後高田組

お待ち受け法要

平成22年9月24日(金)午後1時半、組内妙寿寺様に約220人が参集。「安穩灯火リレー」分灯点灯、「正信念仏偈」(法中内陣行道)、記念布教(ご講師松嶋智護師)(中津組照雲寺様)、講題「生死出づべき道」、アニメ「しんらん様」見本DVD上映後、ご門徒有志提供参加賞の抽選会を



ご法話 (講師 松嶋智護師)

行いました。組発展へのステップとなりました。



お勤め

東国東組 お待ち受け法要

有り難いご勝縁に！

平成22年11月6日、親鸞聖人750回大遠忌法要を勤修、併せて第34回東国東組門信徒大会を妙徳寺で開催いたしました。法要では、参加者(約140名)で献華、このあと



お勤め



ご法話 (講師 田中誠證師)

「親鸞聖人の生涯に学ぶ」のテーマで田中誠證先生のご法話を聴聞しました。かたちとしてのお待ち受けと同時に、聖人のお心のお待ち受けも大切と味あわれた事でありました。

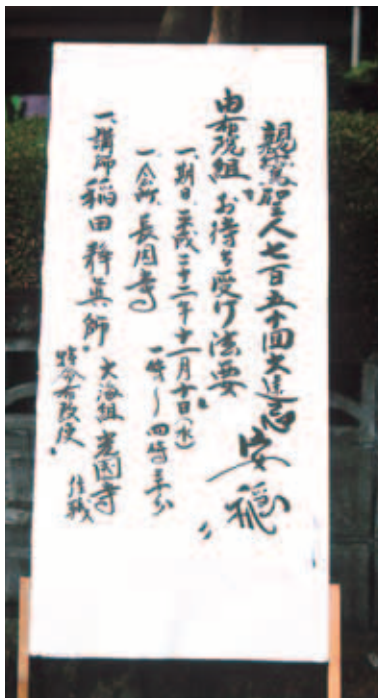
由布院組 お待ち受け法要

期日 平成22年11月10日(水)
会場 長因寺
講師 稲田静眞 先生
参拝者 80名

当日は、全くの好季好天に恵まれ、由布盆地の周囲連山より我が居場所を語りかけているような紅葉の爽やかな景色の中、由布院組はお待ち受け法要を厳粛の内に執行されたことは、ほんとうに意義ある法要であったと、有難く感じています。

この日の設定は、1年後の11月10日を由布院組は、ご本山参拝に決定していたことであります。

教区内では、寺院少数を有



する由布院組として一番の課題として時季的にみて、ご門徒の参拝者の件が一番の懸念でありましたが、各寺院、ご門徒の皆様のお陰により、それなりの参拝者の把握が出来たことに対し感謝いたしていただきます。

必ずしも賑わいのある法要とは言いがたきところもありましたが、開催するにあたり、教務所の皆様方より、いろいろな角度より、ご助言、ご指導を頂きましたことに深くお礼を致します。

参拝者全員でお正信偈をお勤めし、その後、総長のお手紙拝読

「ご聖人のお流れを汲み浄土真宗のみ教に生かされている私たちにとりまして、ご遺



参 拜 者

頂くことを今より念じています。

終わりに
今回のお待ち受け法要は、由布院組にとりまして、大きな気運の高まりを頂いたことを報告します。

国東中組 お待ち受け法要

11月15日、光徳寺を会所に開催しました。

企画、準備、進行等を門信徒と共に話し合い、「大遠忌法要」の周知に心がけて、計画を練りました。

「このお言葉に私達は更に、ご法要に対する気運が高まって来たことは申すまでもありません。」
特命布教使の味わい深く、もの静かな語り口の中、参拝者は十分にご聖人のご遺徳を偲び、浄土真宗のお法りを味わうことが出来たと受けとめています。
一年後の教区内の団体参拝者に対しては、健康で笑顔のある参拝団として、ご勝縁を



お 勤 め

当日は、奉讃大師作法のお勤めで、組内法中による行道にて勤修し、厳かに勤める事ができ、よろこばれました。
講師の先生に、田中誠證師をお迎えして、法話をいただき、「大遠忌法要」の機運が高まる法要となりました。



参 拜 者

およろこび記事

〔任職就任〕

菅 原 秀 乘

中津組 光専寺

(平22・12・16 就任)

おくやみ

次の方々のご逝去されましたので、生前のご苦勞を偲び謹んで敬弔の意を表します。

○甲斐 英行(平22・10・11)
岡 組 聞蔵寺 衆 徒

○山田 正之(平22・10・16)
深 見組 妙泉寺 前住職

○高山 哲哉(平22・10・27)
東国東組 光明寺 前住職

○印山 義宏(平22・11・29)
中 津組 願慶寺 住 職

○清水昭靖 (平22・12・20)
東国東組 光永寺 前住職



編集後記

先日、ご門徒さんのお宅のご法事の席で、私の祖父の弟の同級生に声をかけられました。「あなたのおじいさんの弟はガキ大将で、ずいぶん殴られた…」などと思ひ出話を語ってくださいました。

あとで冷静に考えてみると、祖父の弟は十代後半で亡くなっていますので、祖父の弟からすれば、自分が死んで七十年以上経ってから、自分の兄の孫に同級生が自分のことを伝えてくれるわけです。私からみても、一度も会ったことのない大叔父の話を没後七十年以上経ってはじめて聞くご縁でした。もしご法事がなかったら、その人がどんな人だったか、私は知らないままだったでしょう。「ご法事ですごい！」と思ひました
いよいよ四月から、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要というご法事が本山で勤まります。七百五十年前に亡くなられた方のご法事のご縁、大切にいたしましょう。